

こんな人材が欲しい



株式会社オオウチ工業
取締役会長

大内 養一さん

時代の変化とともに変わる看板の姿
今もなお求められる技術と感性

看板の原点は、遠く奈良時代にまでさかのぼり、平城京で開かれていた市場で、軒下につるした一枚の板に、そこで売られている品物を墨で印したのが始まりと伝えられています。

その後、筆とペンキの時代からカットイングマシンやインクジェットプリンターが登場、近年では数多くのプロジェクトを使い建造物に映写する「プロジェクトショーマッピング」が新たな広告媒体として脚光を浴びています。

い

もに、目まぐるしい変化を遂げていますが、いつの時代も技術と感性、両方が求められてきました。

道端に設けて、通行人に店舗や企業などをPRする建植看板、建物の壁面から突き出す袖看板、ビルの屋上にある屋上広告看板など。街に出ると、大きさや形の異なる数多くの看板によって彩られていることに気づくと思います。文字は読みやすく仕上がりは美しいか、建物や景観に対してバランスが良いかなど、みなさんには日ごろから身近な看板を分析し、感性を磨いてほしいと思っています。

デザイン以外の知識と技術も必要
一人三役の仕事ができる社員を育成

看板業界で働くためには、デザインに必要な技術や知識だけではなく、様々な分野の専門的な技術と知識、それらに伴う資格が必要です。

例えば、一つの屋上広告看板が完成するまでには、看板設置に必要な行政手続きを



社員それぞれが自分の特技を生かして作業を分担しているため、社内でのミーティングは重要な情報共有の場となる



看板デザインの打合せ。見やすい看板を作るため、文字の大きさや色の構成などについて検討を重ねる



看板製作の様子。工場では、機械を使って木材を切断したり金属に穴を開けたり大掛かりな作業が行われている

含め、20以上の作業工程があります。また、弊社では、看板のほかに、展示イベント関連や店舗の内・外装関連の業務も行っています。こうした多種多様な専門知識を必要とする作業をすべて1人で行うことは、不可能です。

そこで弊社では、自分がどの「プロ」を目指すか、的をしぼる事が重要だと考え、一人三役で仕事に携われるような人材を育成しながら、分業化を図って参りました。そのために、日々の業務の中や研修会などで、看板製作に必要な技術・知識・感性に関する指導を行っています。さらに、社会人としての規律・礼節・感謝の思いを毎朝全員で唱和し、人間性の育成にも力を入れています。

看板業界は、千数百年の長い歴史の中で経済発展の黒子役を務めて参りました。自分がつくったものがお店のシンボルとなり、後世にまで残すことができるやりがいのある仕事です。現場の雰囲気確かめるため、是非一度弊社を訪れてみてください。



訓練は、カッターの扱い方からスタートする。シート加工など看板製作の基礎を1年間かけて身に付ける



作成した文字やデザイン通りにシートを切り抜く「カッティングプロッタ」の操作は、看板屋にとって必要不可欠な技術だ



訓練では高所作業も行う。仙台校の屋上にある看板の製作・取り付けは、広告看板科の訓練生が担当している

道具の扱いから作業の心構えまで 広告看板の仕事に必要なスキルを学ぶ

広告看板科は、県内に5校ある高等技術専門校の中で本校だけに設置されている学科です。屋内外に設置する看板の設計・デザイン・制作・取り付けに必要なスキルを1年間かけて学びます。

最初にカッターなど基本的な道具の扱い方を徹底的に身に付けます。その後、文字のレイアウトや色彩構成などデザインの基礎について学んでいきます。

「筆を使って絵や文字を描くような芸術的センスが必要」と思われがちですが、現在はパソコンで作成したデザインを機械で出力する方法が主流です。看板のデザインには、店舗や商品のイメージに合った色や文字フォント、そして何より読みやすさがお客様から求められています。

看板の取り付け作業は、炎天下や高所で行われることがあります。また、昼に看板を製作し、夜に店が閉まってから取り付け長丁場の仕事になることもあります。

このように看板屋の仕事は、独創的な芸術センスよりも、体力が必要な仕事だと思われています。

訓練では、技術のほかに広告看板の仕事に必要な心構えについても教えています。看板は人の目につくものなので、仕上がりの良し悪しは一目瞭然です。お客様から頂いた大切な仕事ですから、「心を込めて丁寧に作業するように」と伝えていきます。

インターンシップと意見交換会で
訓練生の職業意識向上を促す

訓練生は、屋外看板の取り付けに扱う高所作業車や小型移動式クレーンの運転免許の取得を目指します。免許取得に必要な勉強を通して、作業に潜む危険について理解し、安全な作業を行うための判断材料にしてもらうのがねらいです。

そして、秋には希望する訓練生を対象に1週間のインターンシップを実施しています。宮城県屋外広告美術協同組合の協力のもと、業種のイメージや職場の雰囲気を肌で感じるインターンシップで、訓練生の職業意識の向上につなげていきます。

さらに今年度からは、同組合の理事の方々に本校をお呼びして、訓練の様子を見たいと多く取組を始めました。訓練生にとっても業界の大先輩から、直接アドバイスが得られる貴重な機会になりました。その後に行われた意見交換会では、企業が求める人材について直接お話を聞くことができました。今後も継続して行っていきたいと考えています。

仙台高等技術専門校

1964年に開校した職業能力開発施設。仙台校では現在、機械エンジニア科、自動車整備科、電子制御システム科、電気科、設備工事科、建築製図科、塗装施工科、広告看板科の8学科を設置。産業界の担い手を育成している



所在地
仙台市宮城野区田子1-4-1
TEL 022-258-1151
FAX 022-258-5152
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sd-kougi/>



こんな人材を育てている



仙台高等技術専門校
広告看板科 職業訓練指導員

いしかわ ななみ
石川 菜々絵さん